

2014年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2014年度学校関係者評価委員会は、「2013年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2013年度学校評価アンケート」（全校生徒・保護者対象。以下「アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観を今年度実施）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。なお、学校関係者評価委員会規約（抜粋）を最後の掲載しています。

本委員会は次の3点を柱として協議しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

(1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

人のため、社会のために貢献する機会が、学校教育のなかでも十分にあるのか、を考える時、松蔭の「日々の指導のなかのキリスト教の『空気』の大切さ」（2013年度『学校関係者評価報告』より）という言葉が想起される。近年、職員会議は礼拝により始まり、修学旅行など宿泊行事の出発、解散の際にも祈りの時間を持つようになった。教職員が祈りの時間をもつ機会は多くもたれるようになり、キリスト教主義学校ではたらく教職員としての意識は高まっていると見てよいのではないかと。

生徒にとっては、近年の取り組みであるお誕生日礼拝が定着し、福祉施設ボランティア、学外の教会バザーに参加する生徒もいる。中学1年生では聖歌コンクールも始まり、キリストの教えに触れることが増えてきた。高校生の家庭では、礼拝の説教や宗教週間の講話の話題が出ることもあるようだ。

礼拝の時間には、困難にある人、病にある人、苦しみの中にある「見知らぬ人」のために祈りの時間をとる経験は、家庭生活ではあまりない。その時間が学校にあることは子どもにとって大きな意味がある。ボランティア活動に取り組む気持ちもそこから芽生えてくるのだろう。他者のために何かをするという生き方を、中学、高校時代には出来なくとも、大人になってできるようになればよい。

松蔭の教育活動においては、そのような生徒に日々向き合っている教職員全員の一致した気持ちや姿勢、心のあり様が大切であろう。今後も教職員の熱意と取り組みに期待する。

(2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

昨年、一昨年の関係者評価委員会報告では、人間関係の基本としての挨拶の指導の重要性が指摘されていた。今年度、校長を先頭に学校全体の取り組みとして、教職員全員が挨拶の指導に取り組んでいる姿勢は高く評価する。本来、家庭教育により実現するものであろうが、学校として今後も継続していただきたい。

一方で、LINEなどのソーシャルメディアを利用する生徒の間で様々な問題が発生している。特に中学生でトラブルとなる場合が多いようだ。学年ごとのSNS利用状況などを把握し、指導の方向性を検討するべき段階ではないだろうか。

また、聖書の考え方やキリストの教えを踏まえて、人と人との関わりやSNSのもたらす問題、いじめの防止について生徒に考えさせることができるのではないだろうか。

(3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

学校評価アンケートでは、松蔭の授業に満足している生徒が8割となっているが、満足度をさらに高める必要があるであろう。授業の質を向上させるために、今年度は授業研修期間を数度設定し、設置した電子黒板の有効な利用法を教員間で共有しようとする取り組みが行われているという。今後も様々な機会をとらえ、授業の品質を向上させてほしい。

学力の定着と向上については、現在、グレード（習熟度）別クラスにより上中位層の生徒の学力を伸ばす一方で、低学力層に対する課外の認知訓練のプログラム等が活用され始めた。「この学校は助けを求めた人間を見放さない。」（2013年度学校評価アンケート）高校2年生保護者の自由記述より）という声に恥じない、一人ひとりを大切にする学力指導をお願いしたい。

進路については、本委員会は学校見分の1つとして、「大学特講」（高校2年生コースⅡ生徒が、週2時間、神戸松蔭女子学院大学キャンパスで大学の講座を受講）を参観した。生徒からは、進路選択に有効で、大学を身近に感じやすくなる、等の声を聞くが、受講生徒全般の受け止めについてフィードバックしてほしい。今後も卒業後の希望進路を実現させる有効な指導法、体制をつくりあげていただきたい。

以上、2014年度学校関係者評価委員会の報告とします。

第2条 (目的)

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

第3条 (活動)

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

第5条 (組織)

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名
保護者代表 (PTA本部役員)、神戸松蔭女子学院大学代表、
卒業生 (千と勢会) 代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者
- 2、校長、副校長、事務長 4名